

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 華陽フロンティア高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和4年11月10日(木) 13:30~15:30
- 3 開催場所 華陽フロンティア高等学校 仮設校舎 管理棟1階応接室
- 4 参加者

会長	安田 和夫	岐阜聖徳学園大学教育学部 教授
副会長	廣瀬 富久夫	本校同窓会 会長
委員	臼井 悟	鶴自治会連合会 会長
	田内 恵美	本校校友会 会長
	前田 貴子	地域創生キャリアプランナー
	南谷 東子	人権擁護委員
学校側	鵜飼 陽一郎	校長
	桑原 聡	副校長
	中原 泰男	教頭(定時制課程)
	笠井 寛	教頭(通信制課程)

5 会議の概要(協議事項)

- (1) 学校評価アンケート結果について
- (2) 定時制課程 文化祭見学
- (3) 意見交換

○ 教育相談体制(カウンセリングマインドに基づく積極的傾聴)について

意見1: 教育相談体制の充実に取り組んでいてよい。生徒は、抱える問題や悩みを聞いてもらうことで整理ができ、自己指導能力を拓いていく。誰かを頼り相談できてよかったという成功体験を増やしてあげることが大切である。

意見2: 学校全体で、生徒理解に努めていて大変よい。

意見3: 人と人なので相性の良し悪しもある。好かれようとするのではなく、教師も本音で接する部分があっても良いと思う。

意見4: アンケート結果から、家庭で学校に関する話が多くなっていることがわかった。よい傾向である。保護者は、子どもの学校での様子に興味を持つことが必要である。

意見5: どの先生も、文化祭の色々な場面で、生徒へ温かい声かけや対応を行っていた。これがカウンセリングマインドを持って生徒に対応する姿だと感じた。

意見6: 生徒だけでなく保護者の気持ちを聴くことも大切である。懇談など顔をあわせて話すことも必要である。

○ ソーシャルスキルトレーニングについて

意見1：ソーシャルスキルトレーニングの成果は、みえにくいものである。多感な思春期後期の若者は、素直になれない自分ともがいている。ささやかな成長や変化を感じた時、具体的に褒めてあげることで、ソーシャルスキルトレーニングで学んだことを活かしたという実感が持てる。タイミング良く褒めることが大切である。

意見2：ソーシャルスキルトレーニングを授業の中で終わるのではなく、日頃の生活の中で実践できるとよい。

意見3：知識だけでなく実行することで、はじめて社会で使えるものとなる。

意見4：生徒はそれぞれ個性があり、必要なスキルはそれぞれ違う。それぞれが希望する道に進むために努力することが大切である。

意見5：保護者とともに生徒を育てていくことが必要である。ホームページなどを活用して、学校の取り組みを伝えていくことも大切だが、対面での意見交換の場を持つとよい。

意見6：保護者は、他者との関係や社会的・職業的自立につながる支援を望む傾向にあるが、このことは、子どもが望む支援と必ずしも一致していない。先生や保護者が必要と考える支援と子どもが望む支援の相互理解が大切である。

○ 進路指導について

意見1：華陽フロンティア高校が取り組んでいる「生き方在り方を視野に入れた進路指導」とは、“自分の良さや長所を生かす”や“自分で将来を切り拓く”といった生き方サポートだと感じている。一般的な進路指導のイメージとは異なるが、学校の特性に合っていてよい。生徒だけでなく保護者ともしっかりと情報共有することが大切である。

意見2：保護者が、子どもとの会話や学校のホームページを通じて学校の取り組みを知ることが大切である。進路指導については、親子の関係性も重要である。

意見3：どの生徒も自分なりの思いがある。保護者が望む進路と子どもたちの思いが、必ずしも一致していないのではないかと。難しいが、子どもたちの気持ちを大切にしたいサポートをお願いしたい。

意見4：生徒一人一人が、過去と現在を比べて成長を実感し、「昨日より今日」、「今日より明日」という生き方が大事である。そのために必要なものを学べる学校であってほしい。

意見5：卒業生と語らい、触れ合う機会を増やし、「社会の中でこんな生き方がある」という事例に多く触れることが大切である。

意見6：生徒が、自己肯定でき、主体的に自分の人生を考えていけるよう導いていけるとよい。学校の取り組みが、保護者にもしっかりと伝わるように心がけてほしい。

6 会議のまとめ

- ・学校評価アンケート結果に基づいて、活発な意見交換を行った。また、生徒の日々の活動を知ることで、各委員の学校への理解も深まった。
- ・本校の教育活動に寄せる期待や要望を多く聴くことができる貴重な機会となった。
- ・次回は、本年度の反省と次年度への取り組みについて、意見や提言を集約する予定である。